

### 3) マクロライドと polypharmacolgy

<sup>1</sup> 株式会社 エヌビー健康研究所

○高山 喜好<sup>1</sup>

近年、抗体医薬に代表されるような分子標的薬が創薬の主流になりつつある。一方で、COPDのような超長期の慢性炎症の制御には、標的分子への選択性が高い分子標的薬による薬物療法が必ずしも効果的でないことが最近の臨床開発の結果から考察されている。個々の標的分子への阻害効果は弱いものの、性質の異なる標的分子を同時に制御する薬剤が慢性疾患の治療には有効であることが期待されている。こうした治療戦略は“polypharmacolgy”とよばれ、2008年ごろより選択的薬剤とは異なる概念として提唱された。クラリスロマイシンやエリスロマイシンなどのマクロライドの炎症免疫制御機構は、まさにこのpolypharmacolgyの概念で説明することができ、21世紀に入り日本発のマクロライド研究が欧米研究者に広く理解されるようになりつつある。今回のシンポジウムでは、COPD治療におけるマクロライドの効果を紹介し、マクロライドの作用をpolypharmacolgy的アプローチで考察する。